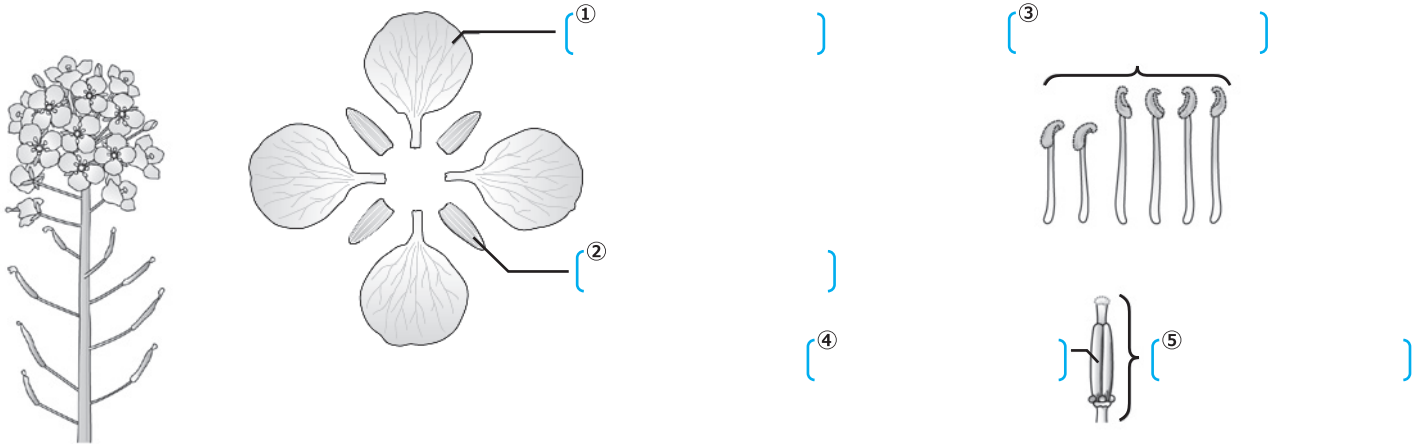


植物の体の共通点と相違点(1)

【1】下の図はアブラナの花を分解したものである。〔 〕に当てはまる言葉を から選んで書きなさい。



■アブラナ

おしべ	めしべ	かべん 花弁	がく	しぼう 子房
-----	-----	-----------	----	-----------

【2】次の文章は花のつくりとはたらきについて説明したものである。()に当てはまる言葉を書くか、○で囲みなさい。

- (1) 花のつくりは、外側から順に、() → 花弁 → () → めしべ の順についているものが多い。
- (2) めしべの先端の部分を(柱頭・子房)、もとのふくらんだ部分を(柱頭・子房)という。
- (3) 柱頭と子房の間の部分を(花柱・胚珠)といい、子房の中には(花柱・胚珠)という小さな粒が並んでいる。
- (4) おしべの先にある袋を(花粉のう・やく)といい、ここに()が入っている。
- (5) アブラナやエンドウのように花弁が1枚1枚離れている花を(離弁花・合弁花)といい、そのような花をもつ植物を(離弁花類・合弁花類)という。
- (6) ツツジのように花弁が一つにくっついている花を(離弁花・合弁花)といい、そのような花をもつ植物を(離弁花類・合弁花類)という。
- (7) アブラナのように、子房の中に胚珠がある花をもつ植物を(被子植物・裸子植物)という。
- (8) 柱頭に花粉がつくことを()といい、そのあと子房はふくらんで(果実・種子)となり、胚珠は(果実・種子)となる。
- (9) マツの花はりん片が集まってできていて(雄花と雌花・がくと花弁と子房)がある。
- (10) マツの雄花には(花粉のう・やく)という花粉の入った袋がある。花粉は(風・昆虫)によって遠くまで運ばれる。
- (11) マツの雌花には子房が(あり・なく)、胚珠がむき出しでついている。このような胚珠がむき出しになっている植物を(被子植物・裸子植物)という。